

第8回生活、総合的な学習・探究の時間 WG 意見

京都市教育委員会事務局指導部学校指導課課長 山田 敦

※公務により当日欠席のため、意見提出

「【資料 2-1】生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ取りまとめ（案）②総合的な学習・探究の時間」を確認しての意見と感想をお伝えいたします。

一番、取組が遅れている中学校にとっては、今回の最終資料は、分かりやすく、危惧している点を整理した素晴らしい取りまとめとなっていることに、まずは感謝いたします。特に「探究的な学び」と「探究」の整理、総合と学校行事との関連については、少しでも早く学校現場に示していただきたいと思う、ありがたい資料です。ありがとうございます。

P13 の「②プロセスの質」における”試行錯誤”については、日常的に使用する言葉なのでさらっと流れてしまいがちですが、さまざまな失敗を良しとし、いろいろ試して最適な解決を見つけることが大切であることをあらためて強調していただきたいと思います。見栄えのいい成果発表を求めるのではなく、解決策を見つけるプロセスこそが重要であると学校現場は確認する必要があると感じます。

P28 の下段の図中の「『探究』に活かす」の”探究”は、P17にある「課題が自分ごととして洗練されていく」の一つだと思うので、特活との連携で大切にしたいところではないでしょうか。

最後に P47 の AI の取扱についてですが、3 行目にある「学習過程を省略することによる学習効果の低下リスク」については、大変懸念しているところですので、ここも強調していただきたいと思います。

*全国の様々な自治体の AI に関する取組をお聞きしていると、安易に、子どもに AI を使わせているところもあるようです。”考えることを手放す”ような AI 利用にならないようにと、本市では慎重に取組を始めています。